

倫 理

(解答番号 ~)

第1問 以下は、大学生Aとその後輩Bの会話である。これを読み、下の問い(問1~10)に答えよ。(配点 28)

- A : ㉔ インターネットで見たけど、日本はほかの国と比べて仕事の時間がすごく長いんだってね。そんなに働くななんて嫌だなあ。
- B : 先輩は働きたくないんですか？ 確かに働きすぎはよくないと思いますが。
- A : だって、㉕ 働きづめの人生なんてむなしいでしょ。できることなら、趣味とか自分の好きなことに没頭して生きたくはない？
- B : でも、趣味では得られないようなやりがいがある、仕事にはあると思いませんか。環境保護や㉖ 福祉に携わる仕事のような、人の役に立つものはどうですか？
- ㉗ 再生医療の研究とか、先輩も絶賛していたじゃないですか。
- A : それはそうだけど、誰もがそんな仕事に就けるわけじゃないでしょ。それに仕事だと結局、自分の気持ちよりも仕事の都合を優先しなきゃいけないし。やっぱり、自分のしたいことをできるのが㉘ 望ましい人生だと思うな。
- B : そうですね。好きなことをするだけじゃなく、働くなかで、与えられた課題を乗り越え、自分の殻を破って㉙ 成長することも大事だと思いますよ。
- A : でも、好きなことに真剣に打ち込むことで成長することもできると思うんだ。仕事では、どうしたって自分らしさを曲げることになるんだから、仕事は生活に必要なお金を得る手段と割り切った方がいいと思うな。
- B : 働くことから得られるものは、お金だけじゃないでしょう。㉚ 自分から責任をもって働くことで感謝されたり、自分が周囲や社会に認められていることを実感したりするのは、意味のあることですよ。
- A : ㉛ 他者の評価を気にしすぎると、流されるだけになりそう。仕事は生きていくために大事だし、しなきゃいけないと思うけど、自分の価値を仕事のなかだけに見いだして、自分を見失ってしまわないようにしないとね。
- B : 確かに流されちゃ駄目ですね。何のために㉜ 社会のなかで働くのか、仕事の意味って何かを、もう一度ちゃんと考えてみたいと思います。

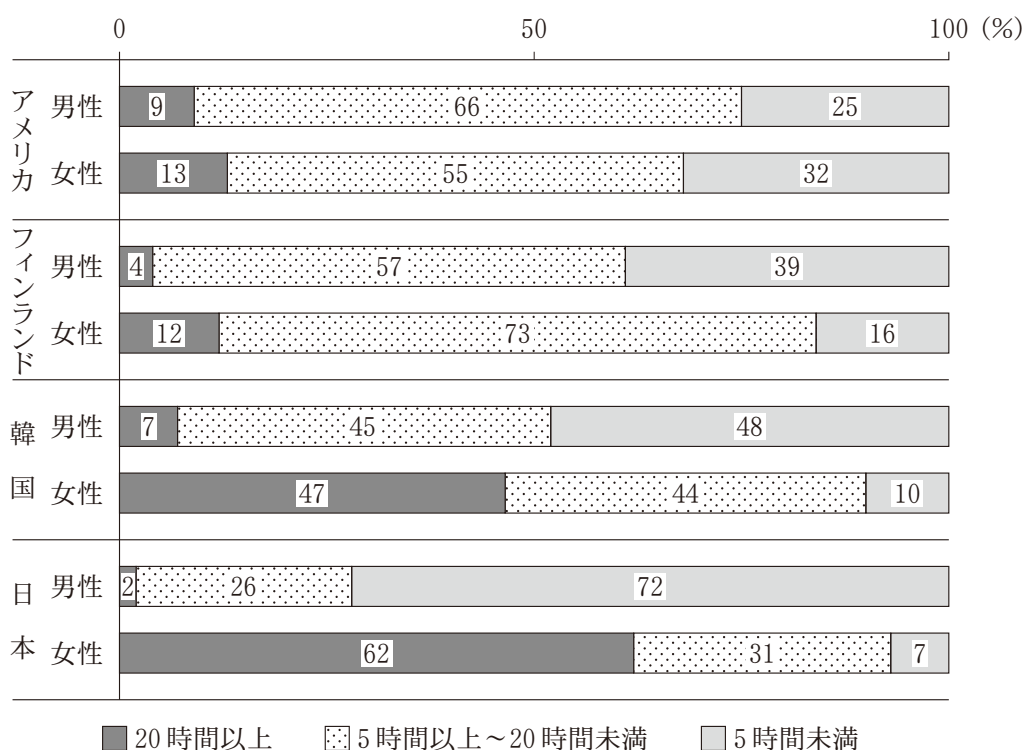
問 1 下線部②に関連して、現代日本では、インターネットの発展などによって情報化が進んでいる。それに伴って生じた問題、あるいは情報化に対応するための取組みについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 情報の漏洩^{ろうえい}や悪用から個人を保護することを目的とした法制度は存在しないため、各個人によるセキュリティ対策が必要となっている。
- ② 大量の情報から必要な情報を収集し活用したり、得られた情報の真偽や客観性を的確に判断したりする、情報リテラシーが必要となっている。
- ③ 国の保有する情報の公開を誰でもインターネット上で請求できるユビキタス社会づくりを目的として、情報公開法が制定された。
- ④ 電子化された情報の不正なコピーを禁止してパブリック・アクセスを保護する制度づくりを目的として、著作権法が改正された。

倫理

問 2 下線部①に関連して、次の図は、配偶者とともに暮らしている男女で、1週間に35時間以上働いているフルタイム勤務者を対象に、1週間のうちで家事に費やしている時間を国ごとに調査し、その結果をまとめたものである。この図から読み取れることとして最も適当なものを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。 2

図 フルタイム勤務者の1週間の家事時間



(注) 図の数値は項目ごとに、回答した人の割合(%)を表す。小数点以下第1位で四捨五入しているために総和が100とならない項目もある。

(資料) NHK 放送文化研究所『放送研究と調査』(2015年12月号)より作成。

- ① 1週間の家事時間が5時間以上である男性の割合が女性の割合を超えているのは、アメリカとフィンランドの2か国であり、国によっては必ずしも女性の方が男性よりも家事の負担が大きいとは言えない。
- ② アメリカとフィンランドでは、男女ともに1週間の家事時間が5時間未満の人よりも5時間以上である人の割合が高く、この2か国ではいずれも、家事時間が20時間以上である人の割合は男女ともに15%未満である。
- ③ 1週間の家事時間が20時間以上である人の割合について、女性が男性の10倍以上であるのは、韓国と日本の2か国であり、女性の方が男性よりも家事の負担が大きい傾向は日本に限ったものではないと言える。
- ④ 韓国と日本では、1週間の家事時間が5時間未満である男性の割合について、日本が韓国を上回っているが、この2か国ではいずれも、家事時間が20時間以上の女性が過半数を占めている。

倫 理

問 3 下線部㉔に関して、福祉についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

3

- ① 近年、健康に重要な価値をおく福祉社会では、健康を害する悪習慣を排除していこうとしたり、そのような害を被らない権利があるとしたりする、リプロダクティブ・ヘルス(ライツ)の考え方が広まっている。
- ② 近年、高齢者や障害者も含めて誰もがありのままの姿で健康に生活できる社会を目指したり、そのような生活を送る権利があるとしたりする、リプロダクティブ・ヘルス(ライツ)の考え方が広まっている。
- ③ 近年、私たちが快適に心地よく過ごすことができる生活環境であるセーフティネットのあり方に関心が集まっているが、それには都市や自然環境における景観や利便性だけでなく、子どもに安心を与える家族なども含まれる。
- ④ 近年、事故や災害の被害者や社会的・経済的弱者などを救済するセーフティネットのあり方に関心が集まっているが、それには保険制度だけでなく、地域ネットワークなどを活用して社会で援助する仕組みも含まれる。

問 4 下線部㉑に関して、再生医療についての説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 4

- ① ES細胞やiPS細胞などの研究が進むにつれて、様々な細胞に分化する可能性をもつ細胞を人工的に作り出せるようになってきた。その結果、従来は作ることが難しかった臓器などの再生への可能性が開けてきた。
- ② ES細胞を作るには、受精卵や初期胚が必要である。それに伴う問題として、人間の生命の^{ほうが}萌芽であるとされる受精卵や初期胚を実験に使ったり、医療資源として使ったりすることの是非が議論されている。
- ③ iPS細胞を作るには、脳死状態に陥ったドナーによって提供された臓器が必要である。それに伴って、そもそも人の死とは何なのか、身体や臓器は誰のものなのか、などを改めて考え直す必要性が高まってきた。
- ④ ES細胞やiPS細胞などの研究が進むにつれて、それらは生殖細胞にも分化し得ることが分かってきた。その結果、生殖細胞を人工的に作ったり、それらを受精させたりしてもよいのか、という問題が生じている。

問 5 下線部㉒に関連して、人間として望ましい生き方について考えた人物の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 5

- ① 神谷美恵子はハンセン病患者の療養所での勤務体験をもとに人間の目指すべき生き方を追求し、生きるうえで「使命感」をもつことの重要性を説いた。
- ② 「水平社宣言」を起草して差別の打破を訴えた景山(福田)英子は、人々が自由と平等に基づく生き方ができる社会の実現を説いた。
- ③ 神谷美恵子は戦争の反省から「過去に目を閉ざす者は、現在にも目を閉ざす」と演説し、過去への責任を引き受け、未来を目指す生き方を説いた。
- ④ 『みだれ髪』を発表して官能を大胆にうたった景山(福田)英子は、^{ふる}旧い道徳に縛られずに自由に生きることを説いた。

倫 理

問 6 下線部①に関連して、次の文章は、自己の成長について説明したものである。文章中の **a** ・ **b** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 **6**

人格発達の理論を提唱したエリクソンによれば、乳児期に育つ **a** が、自分自身や将来に対する肯定的な感覚をもつ基礎となり、一生を通じて安定した人格の下地となる。社会で自立するための準備期間である青年期には、部活動の長となったり、ボランティア活動に参加したりするなど、**b** によって自分の可能性を模索する。しかし、この時期は自分の考えや行動に自信がもてず、不安や混乱に陥りやすい。このときに、**a** が土台となることで、「大丈夫、何とかなる」と明るい見通しをもち、自分の力で困難を克服していくことができるのである。

- | | | | | |
|---|----------|-------|----------|------|
| ① | a | 自我意識 | b | 脱中心化 |
| ② | a | 自我意識 | b | 役割実験 |
| ③ | a | 自我意識 | b | 通過儀礼 |
| ④ | a | 基本的信頼 | b | 脱中心化 |
| ⑤ | a | 基本的信頼 | b | 役割実験 |
| ⑥ | a | 基本的信頼 | b | 通過儀礼 |

問 7 下線部㉔に関連して、次の文章は、哲学者のシモーヌ・ヴェイユが自発性と責任について述べたものである。その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 7

自発性と責任とは、役に立つ存在、さらには不可欠な存在であろうとする感情のことであり、人間の魂の生き生きとした欲求である。

だが、失業者の場合、それらが完全に奪われてしまっている。たとえば、その人が衣食住に困らないよう保護されていても、事態は同様である。……自発性と責任という欲求が満たされるためには、次のような条件が必要である。第一に、自分とは直接利害関係がなくとも、自分と何らかの関わりがあると思われる様々な問題に関して、意志決定を下し得る場合があること。第二に、自分が絶えず努力を惜しまないこと。最後に、自分が属している集団の活動に関して、たとえ何の決定権も意見する余地もない場合であれ、思索をめぐらすことによって、その集団の活動全体を自分自身の事柄とみなせること。

(『根をもつこと』より)

- ① 人間は自分が役に立つ、必要とされる存在であることを欲する。だが、仕事を失った人はそのような欲求をもてなくなってしまっているため、衣食住の保護を求めることを通じて、自らの意欲を引き出さねばならない。
- ② 人間は自分が役に立つ、必要とされる存在であることを欲する。その欲求を満たすためには、自分と直接の利害関係のあることは自分で決める権利を得なければならない。しかし、それ以上の決定権を求めてはならない。
- ③ 人間は自発性を発揮したり、責任を引き受けたりすることを求める。そのためには、自分のことだけでなく、自分の属する集団についても関心を持ち、その集団の活動を自分のこととして考えられるのでなければならない。
- ④ 人間は自発性を発揮したり、責任を引き受けたりすることを求める。そのためには、自分自身に関わる事柄と集団に関わる事柄とを明確に区別して、両者を混同しないよう努力しなければならない。

倫 理

問 8 下線部①に関連して、他者との関係において生じる感情や行動についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

8

- ① ヤマアラシのジレンマとは、相手から傷つけられることを恐れるあまり、互いに相手を先に攻撃しようとする状況を表している。
- ② ヤマアラシのジレンマとは、自分を傷つける相手を恐れるからこそ、互いに相手に近づき、取り入ろうとする状況を表している。
- ③ リースマンの唱えた他人指向型の人間類型とは、第三者(公平な観察者)の立場から他者に共感する人間のあり方を表している。
- ④ リースマンの唱えた他人指向型の人間類型とは、他者からの承認を求め、周囲に同調しようとする人間のあり方を表している。

問 9 下線部①に関連して、次のア～ウは社会における労働をめぐる様々な思想についての説明であるが、それぞれA～Cのどれを表したもののか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 9

ア 営利目的の労働を賤しいこととする中世までの考え方に反対し、職業は神が与えたものであって、働いて利益を得ることは正当だと主張した。

イ 近代資本主義が生んだ、労働者の酷使などの問題に対し、議会活動を通じて、社会保障制度の整備による労働者の福祉の改善を主張した。

ウ 個人には労働で得た財産を所有する権利があるので、国家が社会福祉制度のために個人の財産を強制的に奪うことは認められないと主張した。

A カルヴィニズム

B リバタリアニズム

C 社会民主主義

① アーA イーB ウーC

② アーA イーC ウーB

③ アーB イーA ウーC

④ アーB イーC ウーA

⑤ アーC イーA ウーB

⑥ アーC イーB ウーA

倫 理

問10 本文の内容に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

10

- ① Aの考えでは、仕事では自分の生活を犠牲にしなければならないが、仕事以外からやりがいは得られないため、趣味などの遊びを通じて気晴らしを行いつつ、仕事を続けていくべきである。
- ② Bの考えでは、他人や社会の役に立つ仕事は、他の仕事と比べて困難だが重要であるため、やりがいを得ることや成長することとは関係なく、与えられた仕事に全力で取り組むべきである。
- ③ Aの考えでは、他人のやり方に合わせるような生き方をしたとしても、いずれは自然と自分らしさが出てくるので、自分や他人といったことにこだわることなく、したいことをしていればよい。
- ④ Bの考えでは、仕事を通じて社会とつながりをもつことによって、私たちは他人からの承認の感覚を得ることができ、また、これまでの自分を乗り越えて自らを成長させることができる。

倫理

第2問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

私たちは日々、時間に追われて生きている。だが、時間割や予定表で管理される時間にとらわれ、先々のことを考えるあまり、この今のかけがえのなさを忘れてはいないだろうか。先哲の教えから、この点を考え直してみよう。

今という時がもつ意義を理解するために、人生の儚はかなさを知ることは大切である。古代インドでは①ブッダが、臨終にあたり、弟子たちに「諸行は無常である。だからこそ、怠ることなく修行を完成せよ」という遺言を残した。その言葉に従い、仏弟子たちは、死すべき自己を見つめ、今を無駄にすることなく、八正道などの実践に努めた。また、②中国の孔子も、絶え間ない川の流れを前に時の移ろいやすさを嘆く一方で、「いまだ生を知らず、いづくんぞ死を知らんや」と述べ、現実の生の問題に集中し、正しく生きる道を教えた。ローマ皇帝マルクス・アウレリウスも、③万物が移りゆくなかで、自己に与えられた運命を受け入れ、この瞬間を生きることの意義を書き残した。「④人生は短い。思慮と正義をもって現在を活用しなくてはならない」という彼の言葉には、欲望の赴くままに一時的な快楽を追い求めるような無思慮な生き方を避け、今を正しく生きよという教訓が示されている。

一方、この今という時を、⑤永遠なものへのつながりのなかで捉える考え方もある。⑥イスラーム教では、最後の審判を経て楽園で得られる永遠の生命と比べるならば、この人生は一時的なものにすぎないと教えられる。だが、それはこの人生が無価値だということではない。死後の運命は、この今の人生をいかに生きるかにかかっている。また、教父アウグスティヌスは、神の永遠性を完全なものとして讃たたえるなかで、⑦時間の本性についても考察を加えた。彼は、今、心のうちで過ぎ去る時間に目を凝らすことで、過去から未来へと過ぎゆく日常的な時間を超えた永遠性に触れることができると考えた。彼によれば、永遠の神のもとでの憩いという⑧希望へ人々を導くための手がかりは、今という時そのものにある。

先哲は、無常の世界を見つめ、また、永遠なものへのつながりを考えるなかで、この生のかけがえのなさを認識した。そこには、今を無為に過ごすことなく、正しき道を歩めという教えが込められている。重要なことは、今を真剣に生きることを抜きにして、善き生が実現することは決してないということであろう。

問 1 下線部②に関連して、ブッダの教えを信奉する仏教教団の説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 11

- ① 在家信者になるための条件として、仏・法・僧の三宝への帰依を誓うことが必要とされる。
- ② 不殺生や不邪淫などの五戒は在家信者のためのものであり、出家修行者には適用されない。
- ③ 在家信者たちのなかには、ブッダの遺骨を納める仏塔(ストゥーパ)に集まり、供養を行う者たちがいた。
- ④ 出家修行者たちの中で、戒律の規定などをめぐり、保守的な上座部と改革派の大衆部への分裂が起きた。

問 2 下線部①に関連して、中国では時間の運行も含め、自然の秩序や政治的秩序が天と結び付けられていた。その天についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 12

- ① 周の王たちは、万物はすべて天の支配のもとにあるという信仰を背景として、自らを天と同一視し、自身の下す命令がとりもなおさず天命であると考え、王の権威を神聖化した。
- ② 孔子は、「怪力乱神」を語らず、神秘的な存在について積極的に言及することを避ける一方で、「五十にして天命を知る」と述べ、天から与えられた使命を果たそうとした。
- ③ 孟子は、天命を受けた者が天子となって天下を治めるという考え方を逆転させ、実力本位で王の位についた者を、天命を受けた者として事後的に承認すべきだという易姓革命の考えを説いた。
- ④ 荘子は、気質の性ではなく、本然の性こそが天によって与えられた理であるとし、天の理に従って自らを律することが人間の正しい生き方であると主張した。

倫 理

問 3 下線部㉔に関連して、次のア～ウは、万物の変化について考えた古代ギリシアの自然哲学者たちの説明であるが、それぞれ誰のものか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 13

ア 生成変化し流動する万物には、根源(アルケー)があり、生命の源となる水がその根源であると考えた。

イ 万物はそれ以上に分割することのできない原子(アトム)から成り、原子は空虚のなかを運動すると考えた。

ウ 火・空気・水・土という四つの元素が愛・憎によって結合・分離することで、万物は変転すると考えた。

- | | | | | | | |
|---|---|---------|---|--------|---|-----------|
| ① | ア | ヘラクレイトス | イ | デモクリトス | ウ | エンペドクレス |
| ② | ア | ヘラクレイトス | イ | デモクリトス | ウ | アナクシマンドロス |
| ③ | ア | ヘラクレイトス | イ | ピュタゴラス | ウ | エンペドクレス |
| ④ | ア | ヘラクレイトス | イ | ピュタゴラス | ウ | アナクシマンドロス |
| ⑤ | ア | タレス | イ | デモクリトス | ウ | エンペドクレス |
| ⑥ | ア | タレス | イ | デモクリトス | ウ | アナクシマンドロス |
| ⑦ | ア | タレス | イ | ピュタゴラス | ウ | エンペドクレス |
| ⑧ | ア | タレス | イ | ピュタゴラス | ウ | アナクシマンドロス |

問 4 下線部①に関連して、次の文章は、人生の短さを論じたストア派の思想家セネカが今という時の価値について述べたものである。その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 14

ところで、自分には予見の能力があると言って自慢する者たちの判断ほど軽薄なものがあり得ようか。人は、より善く生きようとして、なおさらせわしく何か忙殺される。……人は、これを、次にはあれを、と考えをめぐらせ、遠い将来のことにまで思いを馳^はせる。ところが、この先延ばしこそ生の最大の浪費なのである。先延ばしは、先々のことを約束することで、次の日が来るごとに、その一日を奪い去り、今という時を奪い去る。生きることにとって最大の障害は期待をもつこと、つまり、明日という時に依存し、今日という時を失うことである。君は運命の手中にあるものをあれこれ計画し、自分の手中にあるものを喪失している。君はどこを見つめているのか。どこを目指そうというのであろう。来るべき未来のものは不確かさのなかにある。直ちに生きよ。

(『生の短さについて』より)

- ① 人間は、今日できることは明日でもできると考え、怠惰な毎日を過ごしがちであるが、それは時間の浪費につながる愚かな行為であるから、将来の計画をしっかりと立てたうえで、今を大切に生きなければならない。
- ② 人間は、善き生のために未来のことを考え、様々な計画を立てるあまり、この今という時の価値を見失いがちであるが、自分が本来は手にしている今という時を真剣に生きることが大切である。
- ③ 人間にとって、目前の事柄に追われ、多忙な毎日を送ることは、長期的な視野で人生を考える時間をなくすことであるから、目前の事柄ではなく、遠い将来に目を向けて人生の計画を練ることを優先すべきである。
- ④ 人間にとって、未来の運命は完全には予測できないが、自分が手にしてきた過去の経験から未来を推測することはできるのだから、善き生のために今という時をいかに過ごすべきかを真剣に考える必要がある。

倫理

問 5 下線部㉔に関して、永遠の存在に関する教えの説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 15

- ① ユダヤ教によれば、神には裁きの神としての一面があり、永遠の神と契約を結んだ民族に対して、裁きに基づいて罰と救済とがもたらされる。
- ② キリスト教では、永遠の神において、父なる神、子なるキリスト、自然の光という三者が一つのものであるという教義が説かれている。
- ③ パラモン教によれば、個人の本質であるブラフマンと永遠不滅の根本原理であるアートマンとが合一することで、輪廻の苦から解放される。
- ④ イスラーム教では、永遠の神アッラーにのみ神性が認められ、カーバ神殿を例外としてその他の場所での偶像崇拜が禁止されている。

問 6 下線部㉕に関して、イスラーム教の説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① アラビア半島ではもともと一神教の伝統が続いていたため、人々はムハンマドの教えを抵抗なく受け入れた。
- ② イスラーム共同体であるウンマにおいて、ムハンマドは宗教上の指導者であったが、政治上の指導者ではなかった。
- ③ ジハードはしばしば「聖戦」と訳されるが、もともと「(神の道において)奮闘努力すること」を意味する。
- ④ ムハンマドの死後、カリフ位の継承をめぐる争いは起きなかったため、現代に至るまで分派は生まれていない。

問 7 下線部㉔に関連して、次の文章は、時間の本性に関するインドと中国の思想を説明したものである。文章中の ・ に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

インドにおいては、時間を一つの実体として捉える考え方がある一方で、時間には固定的な実体(自性)はないとする考え方もあった。とりわけ、ナーガールジュナ(竜樹)は、あらゆる存在は 関係にあることを説く縁起の思想に基づき、過去・現在・未来もまた 関係にあると主張し、大乘仏教の時間論に一つの方向性を与えた。

中国においては、時間の変化を陰と陽の交替で表す考えがあったが、その理論的基盤を提供した『易』は、儒教の経典の一つに数え入れられた。陰陽交替の考えは、無から有が生じ、有が無へと帰る永遠の運動を説く の思想とも親和的で、後世に大きな影響を与えた。

- ① a 相互に依存する b 墨子
 ② a 相互に依存する b 老子
 ③ a 相互に否定し合う b 墨子
 ④ a 相互に否定し合う b 老子

倫 理

問 8 下線部①に関して、次のア～ウは、ユダヤ教やキリスト教における希望のあり方についての記述である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 18

ア イエスの活動以前から、ユダヤ教のなかでは、イスラエル民族を苦難から救う救世主(メシア)を待ち望む信仰が存在していた。

イ 初期のキリスト教会では、刑死したイエスがこの世の終わりにはじめて復活するとされ、そのことに対する希望に基づく信仰が生まれた。

ウ アウグスティヌスは、パウロによって基礎づけられた信仰・希望・愛の三元徳を、ギリシアの四元徳と等しい価値をもつものと考えた。

① ア 正 イ 正 ウ 誤

② ア 正 イ 誤 ウ 正

③ ア 正 イ 誤 ウ 誤

④ ア 誤 イ 正 ウ 正

⑤ ア 誤 イ 正 ウ 誤

⑥ ア 誤 イ 誤 ウ 正

問 9 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 19

- ① 先哲のなかには、移ろいゆく現実をありのままに見つめるなかで、現在を大切にすべきと説く者もいれば、永遠の存在との対比のなかで、救済への希望につながる現在の生に価値を見いだす者もいた。いずれも、今を真摯に生きることを勧める点では共通している。
- ② 先哲のなかには、この世の儚さや万物の生成変化を説く者もいれば、神などの永遠なる存在に救いを求める者もいた。このうち、後者は、今この時を生きることではなく、死後の生にこそ価値があることを説いている点で、前者とは異なる。
- ③ 先哲のなかには、この生の価値を私たちに教えるために、死を忘却する生き方を勧める者もいれば、神などの永遠なる存在に対する信仰のもと、今を大切にする生き方を勧める者もいた。いずれも、今のこの瞬間を重視している点では共通している。
- ④ 先哲のなかには、自分の教えを伝える際に、日常的な時間を重視した者もいれば、日常的な時間を超越した永遠なる存在に思いを馳せ、永遠の生命を希求する者もいた。このうち、前者は、一時的な享楽のみを求める立場を肯定する点で、後者とは異なる。

倫理

第3問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

富士山や高尾山などの著名な山が、ある種の力が宿る場所として「パワースポット」と呼ばれるのを耳にすることがある。それは、日本古来の思想や信仰と何か関わりがあるのだろうか。山をめぐる先人の営みを振り返ってみよう。

『万葉集』において、山は、㉔神そのものとも、死者の魂の在りかともみられた。山は古来、神や魂と深い関わりをもつ、霊的な他界であった。

㉕大陸から日本に伝来した仏教は、平安時代、山に本拠を求めるようになった。古来、霊的な他界として畏敬された山を、仏教もまた㉖修行の場として尊重したのである。修行者は、悟りを求め、あるいは呪力を獲得しようと山に入った。後の㉗鎌倉仏教の祖師たちも、比叡山などで仏道修行に励んだ経験をもっている。一方、皇族をはじめとする多くの人々もまた山深い熊野などに参詣した。㉘極楽浄土の教主とされた熊野本宮の神に参ることは、往生を願うことでもあったからである。つまり、山は、悟りや呪力を求めて修行し、魂の救済を願う場であり、世俗的な世界とは異なる、霊的な他界と考えられていたのである。

江戸時代、「天」を根拠にこの世の秩序を説いた㉙儒学では、熊沢蕃山のように山林の有用性を説きその保全を訴えた学者はいたが、他界としての山について積極的には語られなかった。他方で、この時代も、庶民は、講を組み、あるいは先達^{せんだつ}に導かれるなどして、遠い熊野や富士山あるいは出羽三山などに、盛んに参拝していた。日常を離れた他界である山への行程は、行楽でもあり、御利益を願う信仰の旅でもあった。明治時代になると、富国強兵をスローガンとした㉚近代国家の建設が進められ、山は開発の対象へと傾いた。その一方で柳田国男は、近代的な思想をもつ人も㉛古来の心意を無意識に保存しているものだと指摘している。柳田によれば、祖霊が身近な山にとどまると考えるのは、そうした心意の一つである。

このように、先人たちは、山を、神や死者の魂と関わりをもつ場所として敬い、あるいは悟りを求めて修行し、魂の救済を願う場所として尊んできた。「パワースポット」という言葉は新しい言葉だが、山を特別な場所と捉えることは古くから行われてきたことなのである。今、改めて山に目を向けることは、日本の伝統的な思想の深みを探る旅の、一つの出発点となるだろう。

問 1 下線部②に関連して、日本の神話を研究した本居宣長が、古代の精神を解明するうえで最も重視し、その注釈書を著した書物として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 20

- ① 『古事記』
- ② 『日本書紀』
- ③ 『風土記』
- ④ 『古史通』

問 2 下線部①に関連して、大陸から伝来した仏教や儒教に影響を受けた十七条憲法(憲法十七条)における「和」の教えについての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 21

- ① 儒教の教えに則^{のつと}って、年長者の意見を疑うことなく尊重し、必ずそれに同調することで「和」を実現すべきである。
- ② 凡夫の身で議論を重ねることの無意味さを悟って、仏の教えにひたすら従うことで「和」を実現すべきである。
- ③ 儒教の教えに則^{のつと}って、他人と意見が対立した場合には、自分の意見を取り下げることで「和」を実現すべきである。
- ④ 凡夫であることを自覚し、自己の主張に間違いがあることを恐れつつ謙虚に議論することで「和」を実現すべきである。

倫 理

問 3 下線部㉔に関して、次のア～ウは、仏教者が説いた修行についての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

22

ア 空海は、宇宙の万物は大日如来の現れであり、また、人々の生命の根底にも大日如来の力が働いているとし、修行を通じてその力と一致することで即身成仏を遂げることができると説いた。

イ 源信は、地獄や浄土の姿を克明に描写しつつも、実は、地獄も極楽も迷いが見せる幻だとし、厳しい修行を伴う観想念仏によってありありと想いおも観みられる仏が唯一の实在であると説いた。

ウ 道元は、ひたすら坐禅することそのもののうちに悟りが実現するとし、そうした坐禅において到達する、身も心もすべての執着から離れた自在な境地を身心脱落と呼んだ。

① ア 正 イ 正 ウ 誤

② ア 正 イ 誤 ウ 正

③ ア 正 イ 誤 ウ 誤

④ ア 誤 イ 正 ウ 正

⑤ ア 誤 イ 正 ウ 誤

⑥ ア 誤 イ 誤 ウ 正

問 4 下線部㉑に関して、次の文章は、宗派の異なる僧の争いを描く狂言『宗論』についての記述である。文章中の **a** ~ **c** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①~⑧のうちから一つ選べ。 **23**

二人の僧は旅の途中であり、一人は宗祖が晩年にいんせい隠棲した **a** に参詣した帰りであり、もう一人は善光寺参りの帰りである。相手の宗派に気づいた二人は「例のくろまめかぞ黒豆数へ」「例のじょうこわもの情強者」と心のうちに相手をそし誇る。「黒豆数へ」とはその宗派の人々が黒玉の数珠をつまぐって念仏したことを嘲ったものであり、「情強者」とは四箇格言にみられるようなこの宗派の激しさへのやゆ揶揄である。互いに譲らぬ二人は踊り念仏と踊り唱題で競うが、その激しさにつられて口にする文句が途中で入れ代わってしまう。つまり、善光寺参りの「黒豆数へ」が「**b**」と言い、他方がその逆を唱えてしまうのである。はっとして口を押さえる二人だが、考えてみれば、これらの宗派の母胎とも言える **c** は両方の要素を含んでいる。比叡山という本源を共有する二人の僧は仲直りし、互いの教えに「隔てはあるまじ」という二人の唱和で、狂言はめでたく結ばれるのである。

- | | | | | | | |
|---|---|-----|---|---------|---|-----|
| ① | a | 高野山 | b | 南無阿弥陀仏 | c | 天台宗 |
| ② | a | 高野山 | b | 南無阿弥陀仏 | c | 律宗 |
| ③ | a | 高野山 | b | 南無妙法蓮華経 | c | 天台宗 |
| ④ | a | 高野山 | b | 南無妙法蓮華経 | c | 律宗 |
| ⑤ | a | 身延山 | b | 南無阿弥陀仏 | c | 天台宗 |
| ⑥ | a | 身延山 | b | 南無阿弥陀仏 | c | 律宗 |
| ⑦ | a | 身延山 | b | 南無妙法蓮華経 | c | 天台宗 |
| ⑧ | a | 身延山 | b | 南無妙法蓮華経 | c | 律宗 |

倫 理

問 5 下線部㉔に関連して、日本における仏と神との関係についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 24

- ① 蕃神とは、外国の神という意味であるが、仏教伝来当初は日本の神を指して使われた語である。
- ② 神宮寺とは、神前で読経するなど、神に対して仏教の儀式を行うために神社の境内に設けられた寺である。
- ③ 権現とは、仏が仮に神として現れることを指して、反本地垂迹説の立場から唱えられた語である。
- ④ 神仏分離令とは、仏教を神道から切り離し、仏教の優位を明確にするために出された法令である。

問 6 下線部㉕に関して、日本の儒学者についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 25

- ① 室鳩巢は、もと僧であったが、仏教を出世間の教えであると批判し、^{げんぞく}還俗して儒学者となった。彼は僧侶などの教養であった儒学を学問として独立させ、林羅山などを育成した。
- ② 山鹿素行は、はじめ儒学を学んだが、後に日本にふさわしい実践的な道徳として武士道を唱えた。彼の説いた武士道は、主君のために死ぬことを本質とする、伝統的な武士のあり方を継承したものであった。
- ③ 中江藤樹は、はじめ朱子学を学んだが、後に王陽明の思想に出会ってこれに共感し、日本陽明学の祖となった。彼は、人間には善悪を正しく知る良知がそなわっているとし、良知に基づく日常的な実践を説いた。
- ④ 荻生徂徠は、聖人のつくった礼楽刑政を重んじた。それゆえ、彼は赤穂浪士の討ち入りについて、浪士たちの示した藩主への忠義は幕府の法秩序に優先すると考え、浪士たちを義士として^{ほ たた}誉め称えた。

問 7 下線部㉔に関連して、日本の社会主義に関わりをもつ人物についての説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① 木下尚江はキリスト教的人道主義に基づく社会主義者であり、日本最初の社会主義政党の結成に参加した。
- ② 河上肇はマルクス主義に基づく社会主義者であり、資本主義に特有の問題としての貧困を論じ、『貧乏物語』を著した。
- ③ 石川啄木は『一握の砂』などを著した文学者であったが、大逆事件などをきっかけにして社会主義へ傾倒していった。
- ④ 大杉栄は中江兆民の民権論の流れをくむ社会主義者であり、『廿世紀之怪物帝国主義』を著して帝国主義を批判した。

問 8 下線部㉕に関して、古来の心意を研究した折口信夫についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 27

- ① 伝承された習俗や信仰を手がかりに民俗学的な視点から国文学を研究し、人々と神の交流を通じて文芸や芸能が発生したと考えた。
- ② 柳田国男や自己の学問を古学と呼び、それが本居宣長や平田篤胤による江戸時代の学問を受け継ぐものであると考えた。
- ③ 伝承された習俗や信仰を手がかりに古代の思想を研究し、村落にとどまる祖霊としての田の神こそが日本の神の原型であると考えた。
- ④ 柳田国男や自己の学問を新国学と呼び、それが日本の伝統文化を人類学や生物学の知見を用いて捉え直す営みであると考えた。

倫 理

問 9 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 28

- ① 古来、山は日常を超えた他界だった。神そのものであり、死者の魂が宿る場所でもある山の靈性を人々は畏れ、山の力を封じ、その強い靈力が命や生活に影響を与えないよう山を祀^{まつ}った。そのような思想は後に薄れたかにみえるが、一部の人々によって受け継がれている。
- ② 今日「パワースポット」と呼ばれる山は、死者やその魂と無縁な、生命力にあふ溢れた靈地であると古くから考えられてきた。そのような山で修行する者は、山の生命力を受け取ることができるとされたのである。その意味で、山を「パワースポット」と呼ぶことは的を射ている。
- ③ 古来、山は神としてまた魂が宿る場所として敬われ、悟りや呪力を求めて修行をする者や、救いや御利益を求めて訪れる者がいた。山を、日常とは異なる他界とみるこの思想は後に薄れたかにみえるが、近世以降においても、庶民の営みなどを通して、その伝承を垣間見ることができる。
- ④ 今日、聖地として敬われる山は、かつては神そのものとして、また、死者の魂の帰る他界として敬われた。仏教が伝わると山の靈性は否定され、山は修行によって悟りを目指す、神信仰を排した修行の場となった。その意味で、山を仏教的な聖域とみなすことは的を射ている。

倫理

第4問 次の文章を読み、下の問い(問1～8)に答えよ。(配点 24)

時代はうよきよくせつ 紆余曲折を経て進んでいく。思想家は、現実の様々な困難を前に、現実を捉え直すための「原点」にいったん立ち戻り、課題の解決を目指してきた。その歩みを、西洋近代思想のなかに追ってみることにしよう。

近代は、全く新しい価値の創造からではなく、古代ギリシア・ローマの古典や聖書を原点として再発見することから始まった。㉑ ルネサンス期のベトラルカは、プラトン哲学を熱烈に支持すると同時に、古代ローマを讃えるための叙事詩を著し、人々の生活をのびやかに描き出した。また、㉒ 宗教改革を主導したルターやカルヴァンは、聖書の言葉に立ち返り、真の信仰を模索した。これらの原点回帰の動きは、単なる回顧を越えて、現実を捉え直す思想を生み出している。

17世紀になると、思想家たちは現実の政治や社会のあり方について批判的な思考をめぐらして、新たな社会理論を展開した。㉓ 社会契約説を唱えた思想家たちは、社会や国家の成立を説明するために自然状態という原点を想定し、そこからいかにして社会や国家が成立するかを探究した。例えば、㉔ ルソーは、自然状態を自由で平等な世界として描くことで不平等になった文明社会を批判し、社会契約によって理想の共和国を実現することを構想した。このような社会契約説は、自由で平等な個人からなる社会の実現を目指す市民革命に、大きな影響を与えた。

ところが、資本主義や㉕ 科学・技術が進展すると、巨大な社会組織が生まれて力をもつようになり、人間の画一化の傾向が強まってくる。そのような社会の現実を見据えて、何よりもまず自己の原点の問い直しを重視する思想が生まれてきた。

㉖ キルケゴールは、普遍的・客観的真理の追究では捉えられない主体的真理を求め、人間本来のあり方の解明を目指した。また、㉗ ハイデガーの考えによれば、人間は、避けられない自己の死という可能性に向き合いながら、自らのおかれた状況を積極的に引き受けることで、「世人」という状態から本来の自己に立ち返ることができる。彼らの思想は、近代的な人間像の更なる捉え直しにつながっていく。

行き詰まった状況を前にして、ただ手をこまねいていても現実是不変である。物事の原点にまで立ち戻って現実の課題に対応しようとする先人の営みは、様々な問題に直面する現代にも多くの示唆を与えてくれるのではなかろうか。

問 1 下線部②に関して、ルネサンス期に活躍した人物についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① 壁画「最後の晩餐」などで知られるミケランジェロは、^{ばんさん}絵画や音楽といった分野だけでなく、医学や力学などの自然科学の分野でも業績を残し、万能人（普遍人）として活躍した。
- ② ダンテは、『神曲』のなかで、人間が神の愛によって祝福された存在であることを強調し、人間の魂を、欲望や罪、苦悩などとは無縁の美しいものとして描き出した。
- ③ ボッティチェリは、『デカメロン』のなかで、自由奔放に快楽を追い求める男女の性愛を生き生きと描き出すことで、人間の感情や欲望の解放を表現しようとした。
- ④ 壁画「アテネの学堂」でラファエロは、イデア論で知られるプラトンが天を指し、現実世界を重視したアリストテレスが地を示す姿を描くなど、古代哲学を象徴的に表現した。

倫 理

問 2 下線部①に関して、宗教改革期に活躍した人物についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

30

- ① ルターは、『キリスト教綱要』のなかで、誰が永遠の生命を与えられる者で、誰が永遠に断罪を受ける者であるかは、神の意志によってあらかじめ定められているとした。
- ② ウィクリフは、ルターやカルヴァンらの宗教改革に影響を受けて、聖書に忠実であろうとする立場から、ローマ・カトリック教会の教義や教皇のもつ権力を批判した。
- ③ エラスムスは、『愚神礼讃(痴愚神礼讃)』のなかで、教会や聖職者の墮落を風刺したが、自由意志を否定するルターとは対立し、激しさを増していった宗教改革と距離をおいた。
- ④ イグナティウス・ロヨラは、プロテスタンティズムの勢力に対抗するため、イエズス会を創設し、教皇などの特権的な身分を認めない立場から、教会の改革を行った。

問 3 下線部㉔に関して、社会契約説を唱えたホッブズとロックの思想の説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 31

- ① ホッブズによれば、人間は、自然状態では、自己保存の欲求に基づいて自由に行動をするので、互いに狼おおかみのように争ってしまう。そこで、互いの安全を図るため社会契約を結ぶ必要がある。
- ② ロックによれば、人間は、他人を思いやる良心をそなえているので、内的制裁によって利己的な行為を抑えるものである。しかし、それだけでは自然権の保障は確実ではないため、社会契約を結ばなければならない。
- ③ ホッブズによれば、自然権を譲渡された個人ないし合議体は、リヴァイアサンのような強大な権力をもつべきである。そして、人民はこの権力に服従しなければならない。
- ④ ロックによれば、最高権力である主権はあくまでも人民にある。それに対し、政府の役割とは、もともと人民のもつ、生命や財産などの権利を保障することである。

倫 理

問 4 下線部①に関して、次の文章は、ルソーが^{あわ}憐れみ^{れんびん}(憐憫)の情について述べたものである。その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 32

憐れみの情が自然な感情であることは確実であり、この感情がそれぞれの人のうちの自己愛そのものの働きを緩めて、種のすべての個体が互いに保存し合うことを手助けする。この憐れみがあるからこそ、私たちは苦しんでいる人を見ると、何も考えずにその人を助けたいと思うのである。そして、自然状態においても、この憐れみこそが法と習俗と徳の代わりをする。自然状態の長所は、誰一人としてこの感情の優しい声に逆らおうとする人がいないということである。……理性は「^{なんじ}汝の欲することを他人になせ」という崇高な正義の^{おきて}掟を教えるが、憐れみの情は、「できるだけ他人を害することなく、汝の善をなせ」という自然の善良さの教えをすべての人の心に吹き込むのである。この教えは、崇高な正義の掟ほど完全なものではないとしても、役に立つという意味ではそれを超えるに違いない。

(『人間不平等起源論』より)

- ① 憐れみは、自己愛の働きを緩めて、互いに助け合うことを可能にする感情である。この感情が人間に教える掟は崇高な正義の掟であり、理性が教える掟と比べると、より役に立つものである。
- ② 人は、苦しむ人を見ると、その人を助けようとするが、そのような経験を重ねるなかで、憐れみの情は育まれていく。この感情によって、人は自然状態を脱し、法・習俗・徳を生み出していく。
- ③ 憐れみは、互いに助け合うことを可能にする感情であり、人はそれを自然に有している。この感情が人間に教える掟は、理性が教える掟と比べると、完全とは言えないが役に立つものである。
- ④ 人は、他人が発する優しい声に触発されて自己愛を捨て去り、憐れみの情を獲得するようになる。この感情は、自然状態において、法・習俗・徳が果たす役割の代わりとなっている。

- 問 5 下線部㉔に関連して、次の文章は、科学をめぐる現代の哲学的考察についての説明である。文章中の **a** ・ **b** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 33

私たちが言語で表現するもののなかには、科学的命題のように検証可能な命題と、形而上学的命題のように検証不可能な命題とが混ざり合っている。ウィトゲンシュタインは、その混乱の除去を哲学の中心課題と考え、**a** の末尾で「語り得ないことについては、沈黙しなければならない」と述べたが、論理実証主義者たちはそれを検証不可能で無意味な命題を排除することだと受け止めた。また、**b** は、科学的命題は検証可能なことに特徴があるのではなく、反証可能な点に特徴があると主張した。そして、科学的にみえる言説であっても、一切の反証を受けつけないような場合には、科学の名には値しないと論じた。

- | | | |
|---|------------|---------|
| ① | a 『形而上学』 | b スペンサー |
| ② | a 『形而上学』 | b ポパー |
| ③ | a 『言葉と物』 | b スペンサー |
| ④ | a 『言葉と物』 | b ポパー |
| ⑤ | a 『論理哲学論考』 | b スペンサー |
| ⑥ | a 『論理哲学論考』 | b ポパー |

倫 理

問 6 下線部①に関して、次のア～ウは、キルケゴールの思想を説明した記述である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

34

ア ヨーロッパの人々が、生きる意味や目的を失ってしまったのは、キリスト教道徳に原因があり、そのキリスト教道徳は弱者が強者に対して抱く「ルサンチマン」に基づいている。

イ 人は倫理的に生きようとする、欲望を「あれも、これも」満たす生き方にとどまることはできず、自らの生き方について「あれか、これか」の決断を迫られざるを得ない。

ウ 人間は自由な存在である。だが、自由に自分の生き方を決められるということは、その選択の責任がすべて自分にかかることを意味する。人間のこのあり方は「自由の刑に処せられている」と表現される。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ② | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ③ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 誤 |
| ④ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ⑤ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ⑥ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 正 |

問 7 下線部㉔に関して、ハイデガーの思想についての説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 35

- ① 西洋文明は、存在するものを科学的に対象化したり技術的に支配したりすることに没頭し、あらゆる存在するものの根源にある存在を忘れ去ってしまうという、存在忘却に陥っている。
- ② 文明の進歩を約束すると思われていた理性は、外的自然のみならず人間の感情などの内的自然をも支配するものであり、人間の目的達成の道具にすぎないため、今や新たな野蛮を生み出している。
- ③ 従来 of 西洋哲学は、すべての存在するものを自己に同化しようとする全体性の立場に固執しており、それゆえ自己の理解を超え出ていく他者の他者性を抹殺している。
- ④ 西洋社会の人々よりも知的に劣っていると思われていた未開社会の人々の思考には、文明社会の科学的思考に劣らず、構造的な規則が含まれており、西洋文明だけを特権視することはできない。

倫 理

問 8 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 36

- ① 現実の行き詰まりを目の当たりにした西洋の思想家たちは、物事の原点に立ち返ることで、現実を捉え直してきた。原点とは物事の自然なあり方のことであるから、どの思想家も、現実が自然から逸脱した経緯をたどり直して、自然に帰ることを説いてきた。
- ② 西洋の思想家たちは、その時々^の現実を見据え、物事の原点に立ち戻って考えてきた。各時代の課題はそれぞれ異なるが、どの課題も物事が本来のあり方から乖離^{かいり}することで起こるため、永遠に妥当する理念を示すことで解決を図ろうとした点では共通していた。
- ③ 現実の行き詰まりを目の当たりにした西洋の思想家たちは、どの時代でも物事を原点から捉え直してきた。原点とは物事の起源のことであるから、各時代の思想家は過去の思想に手がかりがあると考え、できる限り古典に忠実に従って、伝統を守ることが理想だと説いてきた。
- ④ 西洋の思想家たちは、その時々^の現実を見据え、各時代の課題と真剣に向き合ってきた。物事の原点に立ち戻ることによって課題の解決を目指した彼らの努力から、文化、社会、人間のあり方などを新たに捉え直すための思想が生み出されてきた。